

# 共感する 場を創る

WORK SHOP REPORT 2024

令和6年度

舞台芸術活用青少年支援事業 報告書



## はじめに

---

文化芸術が人にもたらす影響と、神奈川県立青少年センターの機能を連動させた本事業は今年で6年目を迎えました。

青少年サポート課とホール運営課による、ひきこもり・不登校等、社会生活に困難を有する方に向けた、演劇的な手法の活用により、「想い」を言葉で相手に届け、自身の意識変化を促すことを期待した本プログラムは、今年で3年目となりました。ひきこもり当事者やその支援者の方々を対象に、今年度は、昨年度に引き続き県央地区で2回、新たに湘南地区で2回、計4回実施し、支援者の方々の横の繋がり、市域を超えた連携の強化に取り組みました。

指導者育成課では、人間関係の構築に重きをおいて、子どもと関わる青少年指導員や、学校・団体に活動する指導者、支援者等を対象に、インプロビゼーション（即興劇）を活用した「場づくりに活かすインプロワークショップ」、「インプロ・ゲームワークショップ」、学童クラブの指導員等を対象に「子どもが喜ぶバルーンアート」を行いました。これらのスキルは、職場、学校などの現場に必要な、コミュニケーショントレーニングとなることが期待されます。

多様性の尊重、共生社会の実現に向けて、舞台芸術の表現方法を用いたワークショップ等を実施することで、参加者のコミュニケーション能力の向上を図り、ひきこもり当事者等の課題へ取り組む姿勢を生むきっかけとなることや、学校や団体に活動する支援員、指導員等の資質の向上に資することを願っています。

この企画にご尽力いただきました、アーティスト、団体のみなさま、参加者のみなさまに感謝を申し上げますとともに、この報告書が様々な企画等を考える際に少しでもお役に立てれば幸いです。

神奈川県文化スポーツ観光局文化課  
舞台芸術プロデューサー 兼  
神奈川県立青少年センター  
紅葉坂ホール・スタジオ HIKARI 支配人  
楯屋 一之

# 目次

---

はじめに .....	p1
目次 .....	p2
派遣アーティストプロフィール .....	p3

## REPORTS

Report 1 舞台芸術活用ワークショップ .....	p 5
Report 2 場づくりに活かすインプロワークショップ .....	p14
Report 3 インプロ・ゲームワークショップ .....	p16
Report 4 子ども施設指導員セミナー・ 子どもが喜ぶバルーンアート .....	p22

# 派遣アーティストプロフィール

---



photo by manami tanaka

## 河井 朗 (かわい ほがら)

演出家・ルサンチカ主宰

大阪市出身。ルサンチカ (ressenchka) という舞台作品を作るカンパニーを主宰し、人を人たらしめているものは何かを問うために、戯曲を使ったり、人に話を聞いて構成した作品を上演する。

ここ数年は継続的に「理想の死に方」や「あの日について」等を人々にインタビューしている。東京、京都を主な場所として活動する。



## 鈴木 聡之 (すずき さとし)

インプロパーク主宰

小学校教諭を退職後、高校や大学でも講師を歴任。インプロヴァイザーとして、インプロのワークショップを全国 27 都道府県で開催。即興劇のパフォーマーとしても活動している。



**峰松 佳代** (みねまつ かよ)

役者、インプロ講師、  
株式会社インプロジャパン・シニアトレーナー

日本大学芸術学部演劇学科卒業。幼少より映像・舞台分野で活動。2004年よりインプロジャパンに所属し、現在では、国内外でインプロパフォーマーとして活躍する傍ら、企業から学校まで幅広い分野にて、インプロを活用したトレーニングの講師も務めている。



**犬飼 亜希子** (いぬかい あきこ)

BalloonConnection 店長、バルーンデコレーター

カナダでバルーンを独学後、横浜市栄区を拠点にバルーンギフトショップとバルーン教室を経営。花やケーキのようにバルーンをプレゼントする文化の普及を目指し、バルーンデコレーターとして精力的に活動している。

# Report 1

## 舞台芸術活用ワークショップ

---

### 1.概要

第4回 11名

#### 会場・日程

- 第1回 1月10日（金） 13:30～16:30  
海老名市立総合福祉会館 第1、2 娯楽室
- 第2回 2月4日（火） 13:30～16:30  
大和市文化創造拠点シリウス 601 講習室
- 第3回 2月28日（金） 13:30～16:30  
ひらつか市民活動センター 会議室A・B
- 第4回 3月7日（金） 13:30～16:30  
藤沢市民会館 第2 展示集会ホール

#### 事業の背景及び趣旨

ひきこもり・不登校等、社会生活を円滑に営む上での困難を有する方を対象に、舞台芸術の表現方法を活用したワークショップを実施することで、コミュニケーション能力の向上を図る。

#### 主催

神奈川県立青少年センター

#### 共催

（第1回、第2回）

厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市

（第3回、第4回）

平塚市、藤沢市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町

#### 協力

（第3回、第4回）

茅ヶ崎市

#### 参加人数

- 第1回 7名  
第2回 13名  
第3回 14名

#### 担当者の開催意図

昨年度に引き続き、ひきこもりや不登校の当事者であり「生きづらさ」を感じている人たちが、舞台芸術の手法を通して自分の想いや経験を言葉で表現する体験をすることで、自身の意識に変化が起きることを期待して実施した。

令和5年度は新たな試みとして、県央地域の複数の市と共催することで、ひきこもり支援における市域を超えた広域連携の強化を図った。今年度も引き続き、県央地域で連携して開催するとともに、さらにその範囲を広げるべく、湘南地域の各市町との共催・協力により実施した。

#### 派遣アーティスト

アーティスト

…河井 朗（演出家・ルサンチカ主宰）

アシスタント

…蒼乃 まを（俳優）

永井 茉梨奈（俳優）

### 2.ワークショップ内容

#### ワークショップ企画のポイント

昨年度に引き続き、県内の自治体と協働してワークショップを実施することとし、参加者の募集にあたっては、基本的に各自治体での支援に繋がっているひきこもり等当事者へ声をかけていただいた。そのため、開催前には派遣アーティストと共催市担当者を交えた打合せを行い、参加する当事者の特性等をふまえて配慮すべき点など、意見交換しながら準備を行った。

## ワークショップの流れ

○導入

○ワークショップ開始

「あの日」を描く

「あの日」を想像して話す

グループワーク

発表

## ワークショップの詳細

このワークショップは、参加者自身の思い浮かべる「あの日」について絵を描くことから始まる。「あの日」は参加者の過去の体験、印象に残っている物、記号、架空の出来事など、何でも良い。

その絵を会場内の好きな場所に貼り、展覧会風に見学をした後、それぞれが印象に残った絵についてあたかも自分が描いた絵のように説明をする。

「自称作者」が絵の説明をした後に、その絵を実際に描いた「本当の作者」が改めて絵の説明をする場面もあり、参加者は種明かしのような面白さを感じるとともに、「人によって同じ絵から読み取る内容がこんなにも違う」ということを体感した様子。

最後はグループに分かれ、選んだ絵を二次元（絵）から三次元に再現してみる「立ち上げ作業」を行った。

複数の絵を組み合わせさせてストーリーを作りだしたグループがあれば、特に印象的な1枚の絵から想像を膨らませて作品を完成させたグループもあり、多様な展開を見せていた。いずれも、講師やアシスタントのリードのもと、参加者それぞれが「自分に出来そう、やってみたい」役割を見つけながら取り組んでいた。

集まるメンバーや雰囲気によって、その日限りで生み出されるワークショップの面白さが表れていた。

## 3.アーティストレポート

本年度も神奈川県への依頼を受け、ひきこもり当事者を対象とした舞台芸術ワークショップを実施した。

## ワークショップの流れ



### 【導入】

自己紹介、ワークショップの説明など。  
参加者の自己紹介は、ストレッチで身体を動かしながら、講師からの「この地域のおすすめ情報はありますか」等の気軽な質問に答える形で行われた。



### 【「あの日」を描く】

参加者それぞれが思い描く「あの日」で印象に残っていること・物・風景などを描く。  
絵を描くことが苦手な参加者のために用意した「お助けアイテム」も絵の素材の一つとして大活躍。また、絵を描く際の参考にしてもらうため、絵の例をあらかじめ会場内に展示した。



### 【「あの日」を想像して話す】

気になった絵を選び、絵から想像した「あの日」を自分が作者であるかのように話す。講師がその絵について質問をするが、参加者はさらに想像を膨らませて答えていく。

2022年から始まったこのプロジェクトも今年で3年目となり、開催地域も昨年より拡大することとなった。自分たちの中にも僅かだが確かに積み重なった経験をもとにして、新たな視点からワークショップを考えることができた。

ワークショップの基本的な流れはこれまでと同様のものにした。参加者に「あの日」というテーマで絵を描いてもらい、それを会場内に展示・鑑賞した後、各々がお気に入りの絵を選び、その絵の作者として絵について語る（騙る）というものだ。

恥ずかしながら、これだけの回数を重ねてようやくワークショップの中身以外にも意識を向けることができた。新しい環境に飛び込んできてくださった参加者の皆様にとって居心地の良い環境を整えたいと思うようになった。その中で、今回は自己紹介に新しい取り組みを加えてみた。講師の永井さんに主導してもらい、軽いウォーミングアップを皆さんと共に行なった。手のひらを擦り合わせる所から始めて肩や首を温め、伸びをして拍手する。その後、参加者の皆様にもご自身の不調を抱えている体の部位を聞いて、そのポイントを揉んだり伸ばしたりしながら自己紹介をお願いした。これによって部屋にあった緊張の空気が緩むのを感じた。また名前も本名ではなく「呼んでほしい名前」を名乗ってもらうことにより、自分ではない何者かに「成る」という演劇の一つの仕組みを利用できたのではと思っている。

和やかな空気、発言しやすい空気を作ろうとする理由はこのワークショップの目的の一つに関わっている。ここでは普段と違うチャレンジをしてもらうことを目標の一つとしている。その中で、絵を描くことや、即興で話すこと、人前に立つ（舞台に乗る）ことなどに苦手意識を抱える人が多いのではないかという予想があった。対策のために昨年度は絵を描くためのお助けアイテムとして雑誌の切り抜きやシールなどが用意され、それを予想外の使い方で表現に用いてくださった参加者もいらっしやった。今年度はウォーミングアップに加えて、支援者との連携を



#### 【グループワーク】

2つのグループに分かれて、選んだ絵から想像した物語を講師と一緒に作品として作り上げる。



#### 【発表】

完成した作品をグループごとに演じる。

より深いものにできないかと提案させていただいた。事前にワークショップの内容を支援者の方に検討してもらったり、ミーティングをさせていただいて参加者の方にどのような不安が発生する可能性があるかを共有してもらった。どの工程に不安があるのかを事前に知っておくことでアドバイスの伝え方や方法が変わってくるのでとても参考になった。さらにその情報を参考に当日の様子を見ながら昨年度よりも少人数のグループに分かれた状態で絵の偽の作者になって語ることをしてもらった。人数が少なくなったことによって人前で話すハードルを下げられたのではないかと感じている。

本ワークショップでは、演劇を完成させることは必ずしも重要なことだと考えておらず、参加者の多くが他者との関わりに慎重であることを踏まえ、「何かを作ること」よりも「一緒に時間を過ごすこと」に重きを置いた。私は、他人同士理解しあえなくても一緒にいられる可能性を考えてもらいたいと思っている。その面白さを演劇の「すれ違い」を用いて伝えているつもりだ。

演劇や小説などの物語を持つ「ドラマ」はすれ違いが生み出すと考えている。そのすれ違いは、人間が嘘を「信じる」ことができるからこそ生まれるのかもしれない。参加者が描いた絵に対して、別の参加者が自由に語る（騙る）ことで、本人が意図していなかった解釈が生まれる。そしてそれを聞く参加者はどちらも本当だと「信じる」ことになる。何を語るのか、何を良いと思うか、どの語りを信じるのかも自由で、そんなところに自分と相手の違いを見出す。その違いに距離を感じて相手との交流を断絶するのではなく、それも面白いなと思えることこそが共存のきっかけになるだろうと思う。どれだけ言葉を尽くしても人間はお互いに完全に理解しあえない。だからこそ、すれ違っていても、自分と違ってても、それぞれがそれぞれでそこに居られることが重要なことだろう。

今回はあくまで、演劇的な手法を用いたワークショップだったが「演劇」に強い興味を持ち、何度も参

加してくれた方もいらした。今後はもう少し段階を分けての開催の可能性も感じることができた。今と同じ強度のワークショップと同様に、テキストを用いてもう少し演劇の要素を増やしたワークショップなども検討できる。

また現在はワークショップの時間が3時間と限られているが、複数回の講座にすることによって、より丁寧にすれ違いを起こすことも可能になるだろう。また、その場限りでないという条件下で生まれる嘘の語りは同時に、その嘘を抱え続けていくという責任の話へと発展させることもできるため、より実践的な内容が含まれていくことになり、生活への反映がさせやすいのかもしれない。

それだけに留まらず、参加者だけでなく支援者にも演劇的な手法を実践してもらう機会を設けるなど、支援者との連携を深めることで、より持続的な影響を生む仕組みを作ることが可能だと考える。今後は、可能であれば支援者や関係機関と連携し、具体的な形（例えば展示の企画や、上演など、いろいろできることはあるかもしれない）を模索していきたい。

#### 4.担当者の振り返り・次年度に向けて

昨年度に引き続き、県内自治体と協働する形で実施した。年度当初より、昨年度参加者から「またあのワークショップに参加したい」との要望が寄せられており、本事業の高い満足度が伺えた。

「あの日」ワークショップの実施は今回で3年目となったが、徐々にリピーター参加者が増えている。初めて参加した際には緊張でなかなか手を動かさず、発言も躊躇していた当事者の方が、回を追うごとに表情が柔らかくなり、積極的な発言も増えた。また、前回参加した時にうまくできなかったことや課題と感じたことを、自分なりの対策を考えて次の回で再チャレンジする参加者が数名見受けられた。そうした前向きな変化を感じられたのは、近い地域で複数

回開催したことの成果と思われる。

なお、昨年度より導入した「お助けアイテム」（絵を描くのが苦手な方のための、丸や星などの形に切った色紙や雑誌の切り抜きなど）も引き続き用意。参加者は思い思いに素材を活用し、個性あふれる作品が出来上がっていた。

また、講師やアシスタントからの、参加者に寄り添った声かけによって、発言が否定されない、安心して参加できる雰囲気が作られていた。今後も、少しでも参加者の緊張感を軽減できるような会場づくりを工夫していく。

当事者に同行して参加した支援者からは「当事者・支援者という垣根を超えて、楽しんで参加できた」との声があった。普段の関係性から一旦離れ、フラットに同じワークに取り組むことで、普段見られないお互いの表情が見られる点は、このワークショップの特徴と言える。引き続き、県内自治体や当事者の要望などもふまえながら、今後のワークショップ実施について検討していきたい。

## 5.参加者の感想

●ストーリーを自分で組み立てるのは難しかったですが、チャレンジできて良かったです。


●理由はわからないが、自分が今日思ったことを我慢せず話せた実感があった。

●絵を描くこと、鑑賞すること、嘘八百を並べてみることで、皆で一つの嘘を作ってやってみることで、どれも楽しかったです。一緒に参加した皆さんと講師の皆さんもすてきでした。

●絵を選ばれた時嬉しかった。演劇は足が震えた。こんな体験は日常では無いと思う。

●人それぞれの考えやアイデアがあり、人の数だけ考え方やものの捉え方があることが面白くなって思いました。

ワークショップ参加募集チラシ・表面（県央）



神奈川県  
令和6年度 舞台芸術活用ワークショップ等青少年支援事業

海老名・大和開催

# 伝えたいことって何だろう？

## 舞台芸術ワークショップ<sup>®</sup>参加者募集!!

あなた自身の言葉、届けるために

生きづらさを感じているあなたに…  
舞台芸術の表現方法を活用したワークショップを開催します。  
自分の思い描いたことが、他の人に正しく伝わらない、という体験を通じて、  
どのように伝えたいのだろう、とみんなで話し合ったり、体で表現してみたりと、  
楽しみながらそのヒントを一緒に見つけてみませんか。



令和7年

**1 / 10** (金)

13:30～16:30  
海老名市総合福祉会館  
1階 第1・2娯楽室  
申込み締切り: 12月27日(金)



**2 / 4** (火)

13:30～16:30  
大和市文化創造拠点シリウス  
6階 601講習室  
申込み締切り: 1月28日(火)



ワークショップ参加募集チラシ・裏面（県央）

## 募集内容

対象者：15歳以上の不登校やひきこもりの当事者・経験者など  
※コミュニケーションに不安を抱える方

定員：各回20名（応募者多数の場合は抽選）

参加費：無料

## 申込方法

下記①～⑤を記載の上、  
神奈川県立青少年センター 青少年サポート課  
[nposupport.440@pref.kanagawa.lg.jp](mailto:nposupport.440@pref.kanagawa.lg.jp)  
へメールでお申込みください。



- ① ご希望の日（どちらか、または両日） ※両日とも申し込むことができます
- ② 氏名
- ③ 年齢
- ④ 電話番号
- ⑤ 所属（所属団体、〇〇市居場所活用等。ない場合は記入不要）

メールが難しい場合は、電話での受付も可能です。  
045-263-4479（定休日：月曜日・年末年始）

## 講師プロフィール

### 河井 朗（かわい ほがら）

演出家。大阪府出身。  
ルサンチカという舞台作品を作るカンパニーを主宰。  
戯曲を上演したり人に話を聞いたりして作品を上演している。  
ここ数年は、「理想の死に方」や「あの日」について、継続的に色々な人にインタビューしている。

### 蒼乃 まを（あおの まを）

俳優。千葉県出身。大学では日本文学を専攻していた。  
青年団に所属して活動。休みの日は、  
博物館や美術館に行って暇を潰している。  
まだ、将来やりたいことが決まっていない、  
でも、何でもできる人になりたいので  
何でもやってみようと思っている。

### 永井 茉梨奈（ながい まりな）

俳優。富山県出身。新国立劇場演劇研修12期修了。  
大学在学時には、渡邊守章氏のもと  
フランス演劇の研究・上演に携わる。  
また、日本舞踊やふるさとの「おわら踊り」など、  
地域に根ざした踊りと身体について楽しく学んでいる。

主催：神奈川県立青少年センター

共催：厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市

問合せ先：神奈川県立青少年センター 青少年サポート課  
TEL 045-263-4479

2/28平塚、3/7藤沢でも開催！  
詳しくはHPから  
チェック→



ワークショップ参加募集チラシ・表面（湘南）



**神奈川県**  
令和6年度 舞台芸術活用ワークショップ等青少年支援事業

**平塚・藤沢開催**

# 伝えたいことって何だろう？

## 舞台芸術ワークショップ<sup>®</sup>参加者募集!!

**あなた自身の言葉、届けるために**

生きづらさを感じているあなたに…  
 舞台芸術の表現方法を活用したワークショップを開催します。  
 自分の思い描いたことが、他の人に正しく伝わらない、という体験を通じて、  
 どのように伝えたらいいのだろう、とみんなで話し合ったり、体で表現してみたりと、  
 楽しみながらそのヒントを一緒に見つけてみませんか。



令和7年

# 2/28 (金)

---

13:30～16:30  
 ひらつか市民活動センター(2階)  
 会議室A・B  
 申込み締切り:2月21日(金)

# 3/7 (金)

---

13:30～16:30  
 藤沢市民会館 会館棟1階  
 第2展示集会ホール  
 申込み締切り:2月28日(金)



2階 ひらつか市民活動センター



JR藤沢駅

藤沢市民会館

ワークショップ参加募集チラシ・裏面（湘南）

## 募集内容

対象者：15歳以上の不登校やひきこもりの当事者・経験者など  
※コミュニケーションに不安を抱える方

定員：各回20名（応募者多数の場合は抽選）

参加費：無料

## 申込方法

下記①～⑤を記載の上、  
神奈川県立青少年センター 青少年サポート課  
[nposupport.440@pref.kanagawa.lg.jp](mailto:nposupport.440@pref.kanagawa.lg.jp)  
へメールでお申込みください。



- ① ご希望の日（どちらか、または両日） ※両日とも申し込むことができます
- ② 氏名
- ③ 年齢
- ④ 電話番号
- ⑤ 所属（所属団体、〇〇市居場所活用等。ない場合は記入不要）

メールが難しい場合は、電話での受付も可能です。  
045-263-4479（定休日：月曜日・年末年始）

## 講師プロフィール

### 河井 朗（かわい ほがら）

演出家。大阪府出身。  
ルサンチカという舞台作品を作るカンパニーを主宰。  
戯曲を上演したり人に話を聞いたりして作品を上演している。  
ここ数年は、「理想の死に方」や「あの日」について、継続的に色々な人にインタビューしている。

### 蒼乃 まを（あおの まを）

俳優。千葉県出身。大学では日本文学を専攻していた。  
青年団に所属して活動。休みの日は、  
博物館や美術館に行って暇を潰している。  
まだ、将来やりたいことが決まっていない、  
でも、何でもできる人になりたいので  
何でもやってみようと思っている。

### 永井 茉梨奈（ながい まりな）

俳優。富山県出身。新国立劇場演劇研修12期修了。  
大学在学時には、渡邊守章氏のもと  
フランス演劇の研究・上演に携わる。  
また、日本舞踊やふるさとの「おわら踊り」など、  
地域に根ざした踊りと身体について楽しく学んでいる。

主催：神奈川県立青少年センター  
共催：平塚市、藤沢市、秦野市、伊勢原市、  
寒川町、大磯町、二宮町  
協力：茅ヶ崎市

問合せ先：神奈川県立青少年センター 青少年サポート課  
TEL 045-263-4479

1/10海老名、2/4大和でも開催！  
詳しくはHPから  
チェック→

